



地域経済の振興とまちづくりに全力

がんばります

原田 完です

日本共産党 京都府委員会 <https://www.jcp-kyoto.jp>

私は原田府会議員に期待します

日本の夜明けは京都から
名護市民 仲本 興真

1月23日投票・開票の名護市長選挙は新基地建設反対をかけたオール沖縄の候補が14,439票を獲得したが、相手候補に敗北した。相手候補の獲得票数は19,524票。戦況の構図は、相手候補は自民・公明の政権政党におされたさ候補。岸本候補はオール沖縄の候補。選挙戦は沖縄北部の小さな街の大きな闘いだった。

何かあると「辺野古唯一」を掲げる日本政府。思考停止をして抑止力の名のもとに、コロナ禍のなかにもかかわらず、がむしゃらに辺野古新基地建設を進めている。そこには、県民の負担の軽減を掲げながら、一途に大企業・ゼネコンの利益追求の走狗となった日本政府の哀れな姿がよく見える。



選挙後、多くの方から聞いた言葉。「お金に負けたのかね？」地元のマスコミは「基地には反対だが、辺野古移設が止まらない苛立ち、失望だと。辺野古阻止より、今ある暮らし」と。確かにそうだろう。コロナ禍の中で、庶民の暮らしは厳しい。当面の安定した生活を望む。思考力をめぐらすと、大企業本位の政治の貧困が今をつくっているにも関わらず、庶民は首を絞める政党を支持する。この現実には立ち。見えない仕組みを巧妙につくって庶民をだましていく。

選挙結果は基地受け入れのための再編交付金で、保育料、給食費、医療費の3つの無料化を実現した現市長を名護市民は選択した。選挙の2年前、保育料が名護市は無料になったからと、近隣市町村から若い子育て世代が、移住してきたと話していた知人がいた。ふりかえると、本来、子育て支援は、政治のやるべき取り組みだと思ふ。民意を踏みにじって、子供の将来を奪う基地建設は断じて許せない。



基地建設現場の漁民が、「私たちも基地には反対だ。しかし、国には勝てない」といっていた悲痛な言葉を思い出す。基地こそ沖縄経済発展の最大の障害にもかかわらず庶民は騙され続けていく。いつまで騙され続けるのか。

しかし、あきらめるのは早い。そうだ、日本共産党がいる。ある。働く人々に、事の本質を明らかにして、展望を明らかにする日本共産党。その躍進なしには、庶民の営業と生活は守れない。日本の夜明けは京都からとよく言われた。日本共産党の躍進と、原田完さんの活躍を心より期待します。



都市計画審議会 2月2日に開催 府民の財産として役立つ施設に

都市計画審議会が2月2日に開催され、一つは、城陽山砂利跡地の宇治市計画公園の変更が審議され、もう一つは「都市経計画に関する定期見直しにあたっての基本方針」が報告されました。

2004年から2005年にかけて10トンダンプカー1万6,300台分が採取地に搬入され、京都府は、そのうち3,000台

民間の事業になれば、投資見合った利益追求が求められ、スポーツ施設、宿泊や飲食、遊行施設であつても、府民のためと言いつつも、儲け追求にならざるをえません。

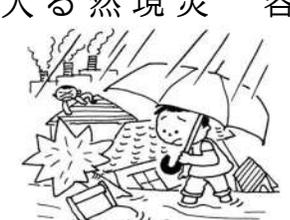


公園面積の拡大になれば、建物の建設率が広がり、民間が北川エリアの土地を活用して、事業計画を推進する事になります。

の深さまであり、そんなところに遊休施設など、儲け本位にならざるを得ない、計画には反対しましたが、多数決で賛成多数で採決されてしまいました。府民の財産として、真に役立つ施設へ引き続き指摘をし改善を図っていききたいと思ひます。

城陽市山砂利跡地は、埋め戻しの時に産業廃棄物等の危険物が入っている危険性があり、その確認撤去も十分に行われたかが疑わしい物です。軟弱地盤が40メートル

ひどい内容です。防災減災の概念に現状の「自然災害による被害が増大するおそれのある新たな土地利用転換を抑制」として入れた土地利用や住まい方の工夫」と内容が「抑制」から「工夫」と規制から百八十度転換して、開発優先する内容が報告されました。



いまでも、自給率37%と言う事態に優良農地がつぶされ、南部地域では山林は切り開かれ、異常気象が多発している中、全国各地で豪雨災害が起きており、開発優先への変更は許されない、とんでもない基本方針の変更です。

岡山の大水害も多くの人はまさかこんな所と言う地域での大規模災害で山林や農地を開発で潰してきた結果ではなかったでしょう。無責任な開発を許さず安心して暮らせるまちづくりを目指しましょう。

